

# いたわり持ち運転を

## 事故防止の交通安全研修

春の全国交通安全運動が6日から始まるのを前に、横浜市内の旅客運送会社で30日、参加体験型交通安全研修が行われた。

研修に参加したのは、シティアkses（横浜市中区新山下）のバス乗務員ら約50人。加賀町署員らの指導を受けて、シートベルトを着用して時速70kmでの衝突の衝撃を体で感じる実験や、安全運転シミュレーター（注）の操作を体験した。

研修の中で、参加者が身をもって痛感させられたのが、高齢者の身体能力の疑似体験。加齢とともに進む視力や聴力、筋力の低下を、特殊眼鏡や重り、サポーターを身につけて再現。バスの階段の上り下りを体験した。

参加者は「自分がお年寄

りの身になって、不自由さや大変さが分かった。いたわりを持った運転を心掛けていきたい」「シミュレーター（注）で死亡事故を起こした。危険予測が足りなかったもので、実際の運転だったらと思うとぞっとした」などと感想を語った。

（中村 卓司）



高齢者のバスの乗り降りを疑似体験する参加者